

5. 地域別構想区域 モデル整備構想（案）

大仁地域では、新サービス業拠点の形成を図るため、国道136号及び国道136号バイパス大仁中央ICと大仁南IC周辺の整備構想を以下のように設定しました。

（1）中島地区周辺の整備の促進

“ひかり（HIKARI）”とは、第2次伊豆の国市総合計画において市の将来像として掲げる“ほんわり湯の国、美し国、歴史文化薫る国、未来を拓く伊豆の国”を構築していくにあたって、一躍を担うものとして、『いつでも、思いやりのなか健康で知性的な働きをする、道路や鉄道等の利便性に恵まれ人々が交流する拠点』として光り輝き発展していくまちづくりをめざすものです。

『やさしさに満ちた便利で快適な暮らしを支える地方拠点

“ひかり タウン 伊豆の国 ”の創造』

H・・・Health：健康

I・・・Intelligence：知性的な働き

K・・・Kind：親切、やさしい、思いやり

A・・・Always：いつも、日常

R・・・Road：道路

I・・・Interchange：立体交差、交流

地区が目指す将来像である『やさしさに満ちた便利で快適な暮らしを支える地方拠点“ひかり タウン 伊豆の国”の創造』を具体化していくため、地方拠点としてふさわしい都市機能の導入・育成、地方拠点を支える交流インフラの整備・充実、安全で快適な暮らしを営むことができる生活環境の改善・向上、地区の特性を活かした都市環境・都市空間の創出を図ります。

①まちづくりの基本構想

【 基本的考え方 】

- ・国道136号の沿道商業機能をはじめ、交通結節点として機能する国道136号バイパスの2つのインターチェンジ周辺が持つポテンシャルと新たなシンボル施設を拠点形成としたネットワーク化、並びに土地利用ゾーニングを基本とする
- ・これまで培ってきた特色ある土地利用や都市環境の特性、基盤整備のストックを尊重

②整備方向

ア 「拠点」の構成とその整備方向

【方針】

- ・地域の暮らしや地方の都市活動を支える拠点形成

【整備方向】

- ・拠点には、既存大型小売店舗周辺を設定
- ・徒歩圏のみならず周辺地域からの住民や本市への来訪者等に対する日常的な買い物、娯楽、リフレッシュ等の商業サービス業務機能や時代の変革に対応する企業、健康や福祉及び医療等のウェルネス産業や生活支援サービス機能の集積
- ・伊豆半島の中心地における質の高い景観、環境を有する拠点整備

【整備イメージ】



商業核

イ 「軸」の構成とその整備方向

【方針】

- ・地域の発展、成熟化を支える公共交通軸
- ・地域の外郭を形成する骨格的な都市交流軸
- ・主要な地域活動を支える地域交流軸
- ・身近な市民生活を支える地区交流軸
- ・豊かな自然にふれあえる水と緑のネットワーク軸

【整備方向】

| | |
|-------------|--|
| 公共交通軸 | <ul style="list-style-type: none"> ・伊豆箱根鉄道駿豆線を設定 ・地域と三島市街地並びに広域圏とを結ぶ利便性の高い公共交通軸 |
| 都市交流軸 | <ul style="list-style-type: none"> ・国道136号バイパスを設定 ・都市レベルの骨格を形成し、広域的な交通を円滑に処理する道路交通軸 |
| 地域交流軸 | <ul style="list-style-type: none"> ・国道136号、市道大105号線を設定 ・通過交通と地域内の生活流動を処理する交通軸 ・地域の骨格を形成する軸として利便性の高い施設を有した軸 |
| 地区交流軸 | <ul style="list-style-type: none"> ・地区内の主要な区画道路を設定 ・上位道路への円滑なアクセスや日常生活流動を処理する道路交通軸 ・安全、快適な徒歩による移動を支える景観、環境を有した軸 |
| 水と緑のネットワーク軸 | <ul style="list-style-type: none"> ・狩野川の「伊豆の国市かわまちづくり計画」と「道の駅伊豆のへそ」が連携した水と緑のネットワーク軸 |

ウ 土地利用の基本ゾーニング

【 方針 】

- ・ 交通環境を活かした沿道商業ゾーン
- ・ 拠点を中心とした商業核ゾーン
- ・ 拠点周辺で企業誘致等を図るウェルネス産業ゾーン
- ・ 便利で緑豊かな住宅ゾーン
- ・ 居住環境と操業環境が調和した住工共存ゾーン

【 整備方向 】

| | |
|------------|--|
| 沿道商業ゾーン | <ul style="list-style-type: none"> ・ 伊豆半島の大動脈を形成している国道136号沿道部は、交通環境を活かした沿道型の商業が集積するゾーン ・ 自動車利用者を対象としたファミリーレストラン、コンビニエンスストア、自動車ディーラー、ガソリンスタンドなどの沿道施設が立地しやすい環境形成 |
| 商業核ゾーン | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「伊豆の国市かわまちづくり計画」に基づき、2023年の供用開始を目標に、神島地区及び吉田地区の狩野川敷地に芝生広場や多目的広場等の機能を有し来訪者が集い、憩うことのできる親水空間を創出 ・ 「道の駅伊豆のへそ」は、伊豆の国市名産のいちごスイーツや静岡・伊豆の特産野菜の販売、世界的自転車メーカーの展示・試乗が楽しめる複合施設であることから、民間事業者にも参画を促し、アウトドア体験や飲食等ができる魅力ある水辺空間を創出し、観光・産業振興を創出 |
| ウェルネス産業ゾーン | <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存大型小売店舗北側は、健康や福祉・医療等のウェルネス産業や生活支援サービス機能が集積するゾーン |
| 住宅ゾーン | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中島既存集落地は、既存のコミュニティを継承し、屋敷林や生垣等の保全を図りながら、緑豊かな住環境を形成する住宅ゾーン ・ その他住宅地も、緑化を推進し、周辺の景色、景観との調和に配慮した住宅ゾーン |
| 住工共存ゾーン | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区中央既存工業地周辺地区及び地区南部は、住宅地の居住環境と工業地の操業環境がお互いに影響しあうことなく調和する住工共存ゾーン |

【 整備イメージ 】



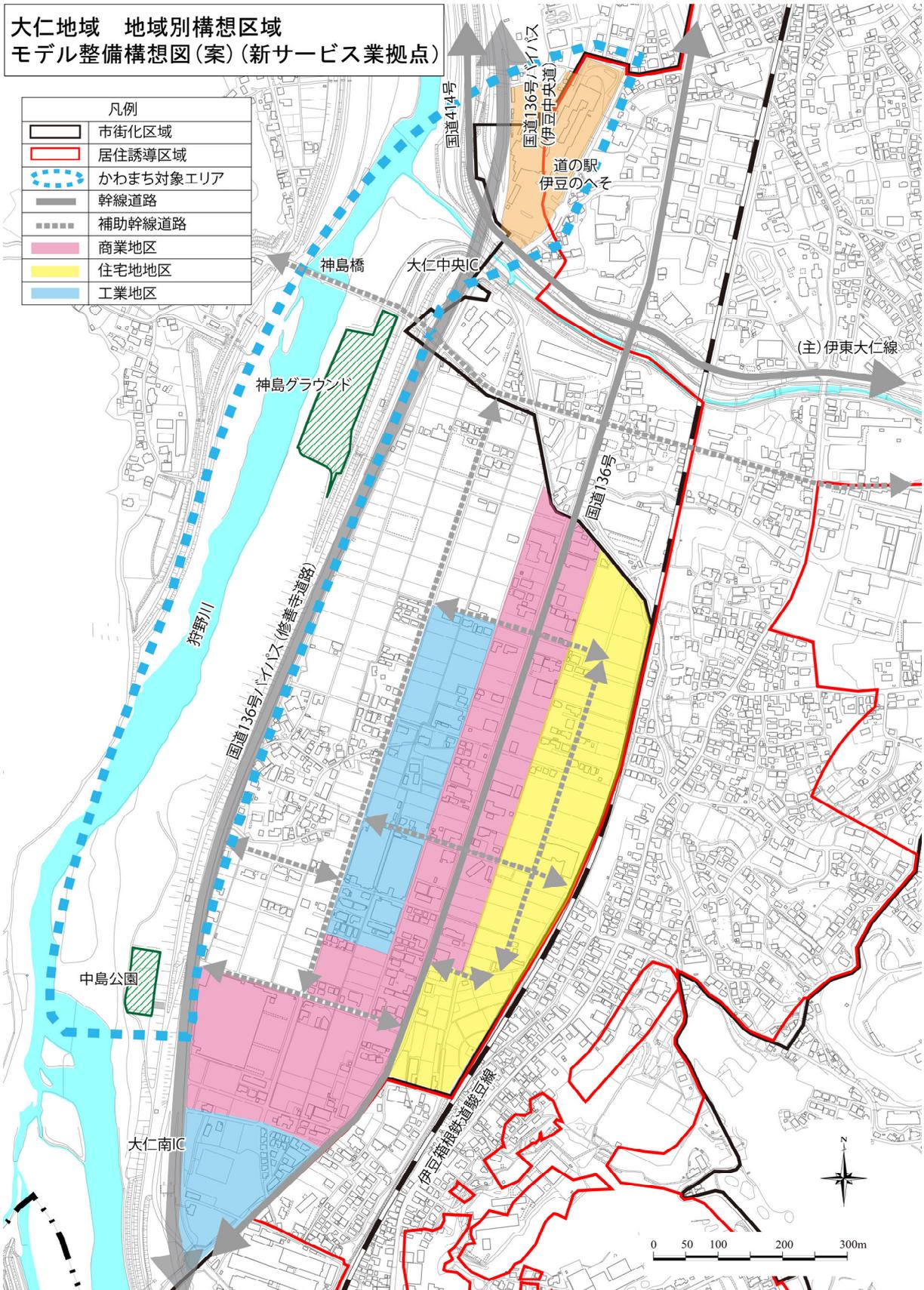
沿道商業ゾーン



商業核ゾーン



住宅ゾーン



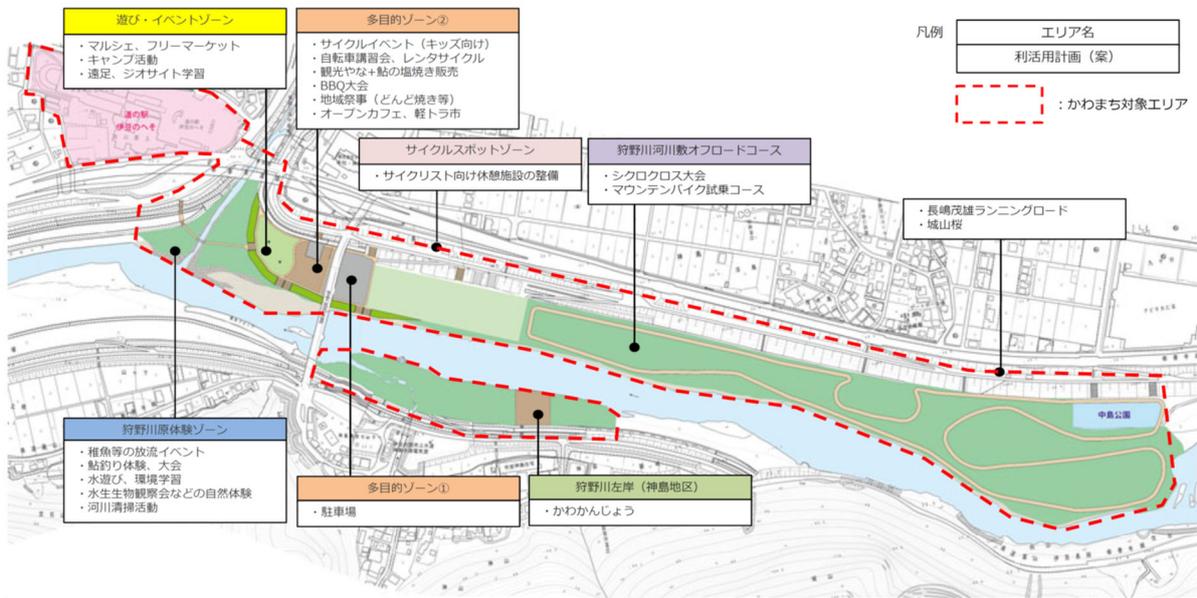
③かわまちづくりモデル構想

◆ 「伊豆の国市かわまちづくり計画」に基づき、2023年の供用開始を目標に、神島地区及び吉田地区の狩野川敷地に芝生広場や多目的広場等の機能を有し来訪者が集い、憩うことのできる親水空間の創出を図ります。また、「道の駅伊豆のへそ」は、伊豆の国市名産のいちごスイーツや静岡・伊豆の特産野菜の販売、世界的自転車メーカーの展示・試乗が楽しめる複合施設であることから、民間事業者にも参画を促し、アウトドア体験や飲食等ができる魅力ある水辺空間を創出し、観光・産業振興の創出を図ります。



かわまちづくり整備予定地

伊豆の国市かわまちづくり整備構想（全体図）



伊豆の国市が行う事業（ハード事業）

地域住民や観光客、サイクリング利用者の利便施設の整備、周遊観光のための整備を行います。

- ・多目的広場への土系舗装、芝生広場への張芝
- ・ベンチ、サイクルラック、洗い場の新設
- ・深沢川への飛石の整備
- ・案内看板、誘導看板の整備

国が行う事業（ハード事業）

治水・防災にあわせた地域住民や観光客の利用・滞在に適した基盤の整備を行います。

- ・平地造成（盛土）
- ・道路から水辺への階段やスロープの整備
- ・散策路（管理用通路）の整備